

## CS こひつじ科礼拝式次第

2022年2月20日 午前9時30分

2022年度年間テーマ：「イエス様の祈り『主の祈り』によって、祈ることを身につけよう」

テーマ曲：ワワワいっしょに（92番）

暗唱聖句：「主は羊飼ひ、わたしには何も欠けることがない。」

詩編 23編1節

9、めぐみうけて（こどもさんびかをお用いください）

おいのり 礼拝に招かれたことを感謝しましょう

せいしよ マタイによる福音書 6章12節抜粋

『わたしたちの負い目を赦してください。

わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように。』

[おはなしとおいのり](#) [「われらの罪をゆるしたまえ」](#) [熊田雄二牧師](#)

（上のリンクをクリックし再生ボタンをクリックすると音声流れます。もし途中で止まるようでしたらファイルをダウンロードしてください）

きょうは、主の祈りの「われらにつみをおかすものをわれらがゆるすごとく われらのつみをもゆるしたまえ」の部分です。主の祈りは、前半と後半に分けられます。

前半 「天にまします我らの父よ」

「願わくは御名をあげさせたまえ」

「御国を来たらせたまえ」

「御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ」

後半 「我らの日用の糧を 今日も与えたまえ」

「我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく

我らの罪をも赦したまえ」

「我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ」

「国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり

アーメン」

主の祈り全体の流れから、後半は、天の神の御心を地上で行なうために必要なことを祈るのです。それが、毎日の食べ物、赦す心、誘惑に負けない心です。

地上に神の赦しがあることから神の国は始まります。そして、世の終わりに神の国が完成して神の御名があがめられます。神の国は、特にクリスマスにキリストが来てくださったことから始まり、世の終わりにキリストがもう一度来てくださることによって完成します。そこで、主の祈りは、一つ一つ順序よく教えられている祈りです。

天地創造の始めから、天の神の御心は、御心が地上でもなされることでした。そこで神さまは、人間を神様に似た心を持つように造って、地上を治める仕事をお与えになりました。「生めよ、増えよ、地に満ちて、地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上をはう生き物をすべて支配せよ」（創世記 1：28）。これが、人類に与えられた仕事です。

そこで神さまの栄光は、人間が地上を良く治めると、表されます。悪く支配すると、表されません。御国は来ません。人類とこの世界のありさまを見ると、「我らの罪」を認めなければなりませんね。地上は神の国とはならないで、悪いものに満ちています。そこで罪とは、人類とこの世界が、神の祝福をいただくことができない、神の呪いを受けていることにあります。神の呪いから救われるには、神の呪いを受けてくださる救い主が必要です。それが、神様の方からくださった、キリストの十字架です。十字架の刑罰は、神の呪いだからです。

聖書は、人間の罪に何もしないで、ただ赦すことは教えていません。罪人は罪の償いをしなければなりません。それを「負い目」と言います。人類と私たち一人一人が、この世界と全ての命に対して犯した罪は、大きな大きな損害で、お金にしたら払いきれません。この世界の持ち主である神さまが、人類と私たち一人一人に「ソングイバイショウセイキユウ（損害賠償請求）」をなさったら、私たち罪人は神様に償うことなどできません。

その負い目を償うことができる救い主を、恵み深い神様は、神様の方からくださいました。それがイエス・キリストです。神の御子がイエスとなって、人間の姿で神の罰を受けてくださいました。ここに神の愛があり、神の赦しがあります。だから、キリストの十字架から始まる以外に、赦す心は始まりません。私たち人間の赦す心は、神さまによって赦された心から始まるのです。キリストの十字架には、人間がお互いに赦しあう力もあるのです。

## 祈り

神様、私たちが互いに赦しあう必要のあるとき、「主の祈り」を思い起こすことができますように。また、イエス様が「私があなたがたを赦したように、あなたがたも互いに赦し合いなさい」言われた言葉を思い出すことができますように。そして、赦し合うことができますように。イエス様によってお祈りします。アーメン。

\* 小さなお子さまには、話の内容等をわかりやすく、年齢に合わせて噛み砕いてお話くださいますようお願い致します。

（けんきん）会堂 2 階掲示板下の机に献金箱を設置しました。

おいでの際におささげください。

71、主イエスとともに（こどもさんびかをお用ください）